

1. 晩抽性ヒロシマナ新品種「晩抽広島3号」の育成

1. 背景とねらい

ヒロシマナは主に漬物に加工され、土産物、贈答用として年間を通して需要がある。しかし、主な作型は11～12月収穫であるため、生産者および加工業者は品質の良い原菜の周年供給を望んでいる。特に、4～5月収穫作型では、抽だいしやすく、それにより収穫期の前進を強いられ、減収となる。そのため、安定して栽培できる晩抽性品種の育成が要望されている。

そこで、ヒロシマナと晩抽性ツケナ類を交雑し、現在の品種より抽だいの遅い4～5月収穫作型用のヒロシマナ品種を育成する。

2. 成果の内容

- 1) 「晩抽広島3号」は、「1号広島菜」と「晩抽チンゲンサイ」との交雑後代に、ヒロシマナの戻し交配を4回繰り返し、その後、個体選抜法、母系集団選抜法により育成した固定品種（2007年12月品種登録出願 出願番号第21802号）である（図1）。
- 2) 形態は在来系統と比較して、葉肉がやや厚く、中肋の幅がやや広いことを除けば、ほぼ同等である（表1）。
- 3) 4～5月収穫作型における抽だいは、在来系統より7日程度遅いため（図2）、収穫期間の延長が可能となり、増収につながる。
- 4) 漬物加工後の食味は、在来系統と比べて総合での評価が高い（図3）。

3. 普及上の留意点

「晩抽広島3号」は根こぶ病抵抗性品種ではないので、根こぶ病発生ほ場での栽培は控える。

（栽培技術研究部）

4. 具体的データ



図1 「晩抽広島3号」の育成経過

表1 「晩抽広島3号」の形態特性²

品種・系統	草丈 (cm)	葉数 (枚)	葉長 (cm)	葉肉の厚さ (mm)	中肋の幅 (mm)	株重 (kg)
晩抽広島3号	40.4	22.4	41.9	0.59 *	62.1 *	2.34
在来系統	41.8	25.5	41.9	0.51	59.2	2.25

²試験場所：広島市安佐南区川内 播種：2005年2月9日，定植：3月9日，調査：5月2日
 数値は20株の平均。*はt検定により5%の水準で有意差あり。

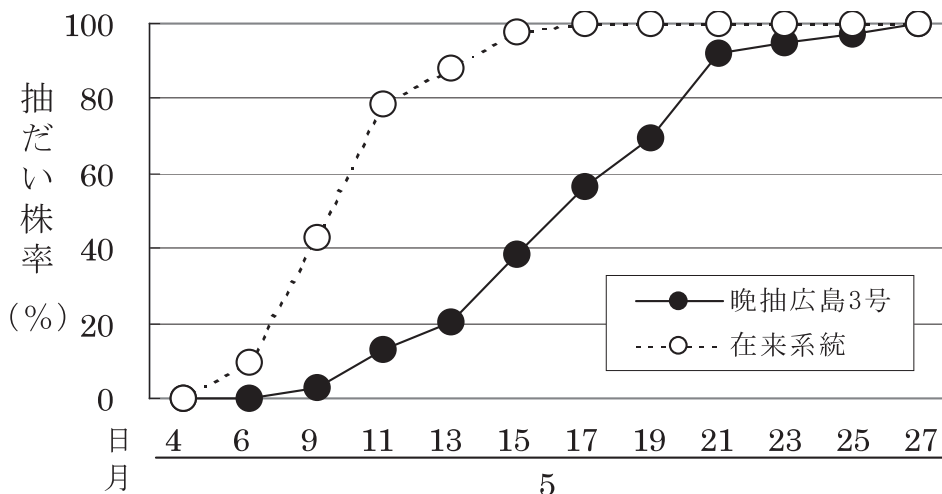


図2 4～5月収穫作型における抽だい株率の推移 (2006年)

注) 花茎が5cm程度伸長した時点で抽だいとした。

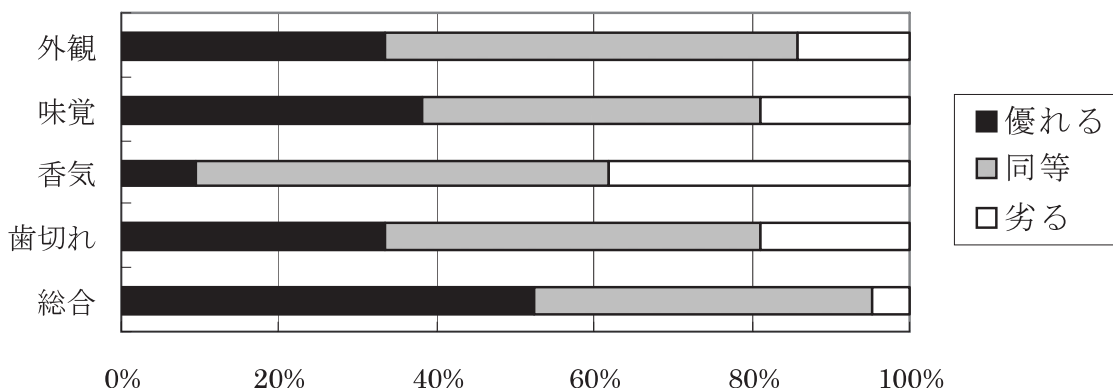


図3 「晩抽広島3号」の在来系統に対する漬物食味評価 (2005年)

注) 21名のパネリストが5項目について5段階で評価し、「晩抽広島3号」の点数を在来系統の点数と比較して3段階(優れる, 同等, 劣る)に区分し, その割合を示す。食味評価に用いた漬物は, 農業技術センターで荒漬けを1日間, 中漬けを2日間, 本漬けを6日間行った。